

中日ニュース

第二四〇号 内容

高野久五郎

一、琵琶湖の夏

日本一の湖、琵琶湖の夏は今年も海・山に負けない賑いを見せ、観光船は今にも沈みそうな程のお客を乗せて走り廻る繁昌ぶりです。この湖に浮ぶ周囲十キロの沖の島は戸數百四十二戸の琵琶湖では一番大きな島です。ここに住む人達の殆んどが漁で生計を立てています。夜明けの五時ともなる夫婦揃って沖の仕事場へ、今がシジミとゴリの最盛期とあつて女達も総出で仕事をしています。華やかな観光地とうらはらにさゝやかな獲物で生計を立てる島の人達の姿です。

一、微妙な米ソの動き

緊迫した中東状勢をめぐつて八月三日北京で行われた毛沢東、フルシチョフ会谈のコミニケ調印は足並の揃はなかつた西欧側に大きな衝撃を与えました。こうした中で八月八日から開かれた国連緊急総会には冒頭、アイゼンハウワー大統領が登壇国連平和軍の設置、暴動、内戦の取り締りなど中東平和の六原則を提案すれば、グロムイコソ連外相は中東に介入した米英軍の即時撤退が先決だと強くきめつけました。こうして十五日藤山外相が立つて日本の立場を明らかにするなど、国連にもちこまれた中東問題のなり行が注目されます。

一、嫌われた新兵器

防衛庁がスイスから買った対空誘導弾エリコンを乗せた有馬丸が十七日横浜に入港しました。ところがそんな物騒なものは御免蒙ると沖仲仕組合は陸揚げを拒否して海上デモを行つた。行つた中、船の目も見えないうちに新兵器はすつかり嫌われてしまいました。

一、流血デモ

勤評反対のデモ行進に右翼団体の乗用車が突入し、この騒ぎにかけつけた警官隊とデモ隊が大乱斗となる事件が八月十六日和歌山市でおきました。全学連の学生など約千名と警官隊との争いは手のつけられない大混乱におちいり、ついに双方から百二十名にのぼる重軽傷者を出すという流血の騒ぎとなり、この乱斗で逮捕者を出したデモ隊は更に警察署前に座りこみを行つてにらみ合いましたが、結局ゴボウ抜きの実力行使で解散。ついに血を流した勤評斗争はドロ沼の様相を見せています。

一、日濠水の熱戦

八月十四日から神宮プールで開幕した日本選手権水上競技大会は強豪オーストラリア選手をむかえて熱戦の火蓋をきりました。二百米背泳では期待された日本選手をしりぬに、オーストラリアのジョン・モンクトン選手が堂々二分十九秒一の世界新記録で優勝、又平泳も二百米決勝でオーストラリアのテリィ・ギャザコール選手が二分三十九秒一とこれも世界新で優勝するなど水泳王国の名を欲しいままにしました。然しバタフライでは日本選手の独壇上。百米決勝では石本、増永、開田の日本選手が堂々一位から三位までを独占、石本選手は一分一秒三の世界タイ記録を出しました。破れた山中が再び挑戦する四百米自由型の決勝。然しここで山中はコンラツズに名をなさせましたが、最終日の二百米では二分三秒三の世界新で優勝名譽をばん回しました。

222 170 160 148 製作配給 東京中日新聞、中部日本ニュース映画社